



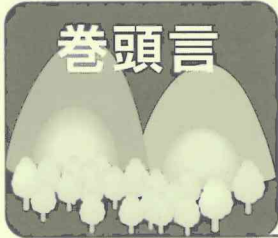
# 子ども樹木博士 ニュース

2012 - 9

No. 48

子ども樹木博士認定活動推進協議会

## 巻頭言



## 森の風景と音楽

### —DVD「森の国日本」の紹介—



子ども樹木博士認定活動推進協議会 会長 木平 勇吉(東京農工大学 名誉教授)

磯野宏夫画伯は森の絵を描くイラストレーターとして高名な方です。これまでに「エメラルドの夢」、「エメラルドの森」など、日本の森、世界の森の風景や生きものの姿を描いておられます。美しい絵としてだけでなく、高校生の森林の教科書のさし絵や表紙となり、勉強の教材にもなっています。森林の風景の中に生態系が多く描かれています。教科書では眠くなるエコロジーの説明が、このDVDの風景では目が覚めます。四季の移り変わり、里山と奥山、温帯林と熱帯林、乾燥地と湿地まで、そこに生きる動物・植物の暮らしと環境の関係である「生態系」が目に見えて画面上に広がっています。

さて、これらの風景に動きと音楽とが組み合わされたブルーレイ用のDVDが作られました。絵が静かに動き、音が変わり生きいきとした別の世界が生まれます。家庭のテレビが森の美術館になり、慌ただしさとは無縁の豊かな静寂の時間が作られます。

今、世界の森が荒れていると学校で学びます。だから、守らなければと教わります。このブルーレイの美

しさを目にした私たちは、森は素晴らしい、だから守らなければならないと思います。

子ども樹木博士の活動の原点は、森に入り、樹木に触れる体験です。体験を通じて興味を深めることです。名前を覚えるのもその一環です。このDVDでは室内で森の空気を吸い、小鳥の音が聞こえます。紅茶のある午後のひと時を過ごす大人の時間かも知れません。忙しい毎日の中で一息入れてみませんか。

入手にはインターネットに「磯野宏夫」を入力して、木平勇吉の記事の「まほろばの夢、森の国日本」などのブルーレイ用DVDを購入したいと話してください。次のような絵が音楽とともにつぎつぎに展開されます。



## 【目次】

巻頭言	森の風景と音楽—DVD「森の国日本」の紹介—	子ども樹木博士認定活動推進協議会 会長	木平 勇吉	…1
特集 I	身近で普通の動植物も、よく観察すれば面白い	森林インストラクター	吉村 妙子	…2
特集 II	子ども樹木博士認定活動の実施手法—その2：計画編—	森林インストラクター	柳原 高文	…3
事例報告 I	創意と熱意を重ねた10年間	土岐市「子ども樹木博士」認定実行委員会	高橋 久義	…4
事例報告 II	活動の柱は「森を愛する人づくり」	大阪森林インストラクター会 会長	菅沼 洋	…5
シリーズ	東南アジアの木々たち(17)—南国の象徴・ココヤシ②—	自然と植物の観察会 TREECIRCLE	梅本 浩史	…6
子ども樹木博士質問コーナー		茨城県植物園緑のインタープリター・森林インストラクター	堀内 孝雄	…7
事務局だより	第12回通常総会の開催について(報告)など			…8

## 特集Ⅰ



## 身近で普通の動植物も、よく観察すれば面白い



森林インストラクター 吉村 妙子

今年の夏も全国各地でうだるような暑さが続き、身近な森の散策でも水分・糖分・塩分は欠かせません。定期的に訪れるフィールドには売店等がないので、飲み物や飴を持参し、途中の水場で冷たい湧き水を水筒に補充します。

観察では、ごく普通の樹木や草本、昆虫、動物の痕跡など、何でも対象になります。各自がそれほど詳しくなくても、それぞれ好きで得意な種類があり、また各自が別々の図鑑を持ってきてお互いに教えあったりします。

7月から9月にかけては、秋の花にはまだ時期が早い場合もあり、森林の風景は意外に地味かもしれません。空に雲がかかっている花によっては閉じており、鳥や昆虫もおとなしくして出てこない日もあります。

観察の日がそんな日に当たっても面白い発見がたくさんあるもので、例えば昆虫が普段よりもおとなしければ、思い切り近づいて写真を撮ったり、しばしケースに入ってもらって観察することもできます。植物なら、葉の表裏の両面も、茎や樹皮もじっくり見る時間があり、早くも冬芽の準備を始めた植物に感心することもあります。

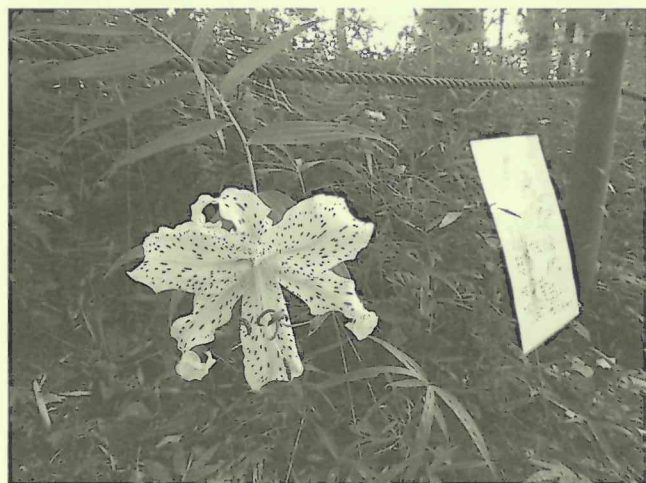
条件のそろった時に当たって、比較的希少な植物や昆虫などが見つければ、もちろん大喜びです。一方で、その地域にごく普通にある代表的な樹木が元気に繁茂

していて、その木にやはり地域の鳥や昆虫が訪れていたりすると、この森にとって大事な木がしっかり役目を果たしていることにうれしくなります。私が通っている森にはコクサギが多いのですが、イナズマ模様の冬芽に始まり、春の花、独特の葉、果実、利用する昆虫の多さなど、いつも見どころがたくさんです。

子ども樹木博士をはじめ、観察会など自然環境とふれあう催しでは、在来の植生に普通にある植物種の面白さ、他の動植物とのつながりや人の暮らしとの関わりにおける大切さを伝えられればいいと思います。目の前で一本一本の樹木が懸命に生きている様子から、公園や森林、里山、流域の生態系など周りに大きく広がる自然環境までを感じ取れる、大切な機会です。樹木との健全な関係を築ける人を育てるためにも重要なことでしょう。

植物の面白さや樹木の大切さを伝えるには、観察会を開く側が、こうした面白さや大切さを素直に感じて表現するのがいいのかもしれませんが、先日、「牛久自然観察の森」を歩いたら、園路に沿って紙をパウチ加工した手作りの解説板がいくつも掲示されていました。手描きの絵が描かれているものもあり、伝える人の気持ちがこもった解説をフットワーク軽く発信していて楽しく読みました。また解説してある動植物が、その辺に普通に生えている雑草や、生態系の中でも分解者にあたる動物だったのも、身近な動植物に対する温かい視線が感じられました。

子ども樹木博士も、身近な樹木を観察して名前を憶えてもらい、興味を抱いてもらう活動なので、すぐそばに在る樹木に接することからスタートでき、開催後にも観察対象が身近に在るという利点があります。子ども樹木博士で憶えた木の横を通るたびに観察すれば、春夏秋冬の樹木の変化や、その木を訪れる鳥や昆虫など、面白い発見がたくさんあると思います。参加した子どもたちと一緒に、継続的に面白い発見を楽しんだり、疑問を調べたりすれば、活動が一層深まりそうです。



「牛久自然観察の森」のヤマユリと解説板

## 特集Ⅱ

# 子ども樹木博士認定活動の実施手法

## —その2: 計画編—



森林インストラクター 柳原 高文

### 社会科とのつながり

6月の観察会のことです。都市公園の脇を流れる小川の河川敷でクワを見つけました。「昔この木の葉を利用して、ある生き物を飼っていたんだけど、何だか分かる?」、この質問に小学校4年生を中心とする子どもたちは? 「昆虫を飼育していたの?」。飼育とは少し違います・・・小学校4年生では、まだ社会科で養蚕について教わっていないようです。少し前までは当たり前のように行われていた養蚕は、教科書で教わらないと、知識として子どもたちに認識されないようです。「地図記号で桑畑を知らない?」、この質問に「ああ〜!」、「このことなのか〜」。どうやら我が国の生活の変化は早すぎるようです!

今度はクワの実を食べます。「クワの実を食べられるんだよ!昔は子どもたちのおやつだったんだ!」。子どもたちが喜ぶと思って言った言葉に「・・・」、「食べて死なない?」、警戒しています! まずは試食して(毒味?)見せなければ疑いは晴れません!私がおいしそうに食べる姿を見て、チャレンジャーの子どもが手を出しました。黒紫色の熟した実をわたすと「おいしい〜!」、この一言をきっかけに「ほくも〜」、「わたしも〜」、「おいしい〜」、「ワイルドだぜえ〜」。時代は変化しても子どもたちの味覚は変化していないようです。すっかりご機嫌になった子どもたちは、川の



魚を観察したり、カワトンボをつかまえたりして自然に親しみました。

このとき感じたことをまとめると、次のようになります。

- ① クワを説明するならば、「蚕の写真」、「繭玉」、「絹織物」などの小物を用意すればよかった。
- ② 地図を用意して地図記号を見せればよかった。
- ③ 社会科と植物は関連している。
- ④ やはり食べさせると盛り上がる。

### 我が国の伝統産業と植物とのつながりをテーマにして計画を立てる

子ども樹木博士認定活動は、子どもが主役です。子どもたちは、一日の多くの時間を学校で過ごします。子どもたちは、学校で教わることは生活の一部、そこで扱われることについては抵抗なく吸収していきます。もし、子ども樹木博士認定活動の認定樹木に、我が国の伝統産業と関連しているものがあれば、解説のアイテムとして実物を見せることで活動の幅が広がってくると思います。小学校5年生の社会科で教わる伝統産業(伝統工芸品)と樹木が関連しているものには、次のようなものがあります。

- ① カツラ(鎌倉彫)
- ② ウルシ(漆塗り)
- ③ ミズキ(コケシ)
- ④ シナノキ(シナ皮)
- ⑤ ヤマブドウ(籠やバック)
- ⑥ キリ(たんす、木目込み人形の木地)
- ⑦ コウゾ、ミツマタ(和紙、紙幣)
- ⑧ スギ(曲げわっぱ、樽、線香)

これだけではなく、各地方ならではの工芸品や木工品などをとりあげ、自然の中で生育する樹木という観点だけではなく、伐り出し木材として利用してきた我が国の森林文化、伝統産業に触れることを計画の一部に取り入れる方法も面白いと思います。

事例 報告 I

# 創意と熱意を重ねた 10 年間



土岐市「子ども樹木博士」認定実行委員会 高橋 久義

子ども樹木博士の10回のイベントを終わってみると、これまでよく身体が動き続けてやってこられたと思っています。「なんとしてもやり抜こう、成し遂げよう、子どもに楽しんでもらおう」とした精神力でしようか。(今からはできません。)

企画、交渉、依頼投稿、現地踏査、樹木名表、写真、記念品、ポスター、報告、アンケート集約、反省、懇親等々、自腹で全てをほぼ一人です。現地の説明と認定書を含めた体験散策の日は、3人のスタッフに無償援助をお願いしてきました。

最初は不安で、自信がなく、実施計画書を送ると子ども樹木博士の事務局の女性から「初めての開催、ご成功を祈ります！何かありましたらお気軽に！」と励ましの書面をいただいたことを鮮明に覚えています。(Gさん謝謝)

身近にある木の名を覚えることによって植物と親しくなり、次世代を生きる子どもたちに自然と環境について直に触れながら学んでほしいと考え、初めの頃は県の木「いちい」、市の木「ひとつばたご」、何処にでもある「あかまつ」、家を建てる「ひのき」、中国で発見されて間もない大径木の「めたせこいあ」、動物の名の付く「ねず・いぬつげ」等々、24種(表参照)を選びました。認定では子ども17種、大人24種としましたが、満点が多く、①メモは見ても良いこと、②



市に協賛して実施した「子ども樹木博士」(H23.9.10)

枝を並べて復習したことが良かったかな〜と。回を重ねるにつれて樹木は順次変更していきました。当地方は痩せ山で、全国でも3本の指に入る程の大規模な禿げ山が多かったこともあり(原因は地質と地場産業)、「やしゃぶし、にせあかしあ、はぎ」等の痩せ地対策肥料木の追加をしました。多治見の木「しでこぶし」を追加したり、初夏に家庭でほおばの殺菌作用を利用した寿司を包む「ほおのき」も入れました。この木は「ほおば寿司」として、子どもたちは良く知っていました。25種(表参照)(市の森まつりに協賛し、認定書は取り止め)。

樹木ばかりでなく秋の七草を取り入れたり、後には「なでしこの花」も説明しました。希望を少しでも叶えようと、①どんぐりのコマ、②すすきの花穂で投げ矢、③しいの実・なつはぜの実の試食、そして④からまつの球果の馬模型は、当日子どもと一緒に作って遊びました。また、当市の木や花、山や川、地球の温暖化の原因を択一クイズにして散策中に取り入れ、一緒に考えながら「喚声」をあげていました。

大人たちも樹木に関して何でも聞きたい、知識を得たいとの要望が多く、市広報のパンフでも「この森の樹木に詳しくなろう」と歓迎してくれました。これまでの汗が創意工夫や熱意となり、長く続けられたらと思います。今年も市から森まつりへのイベントへの参加要請を受けましたが、「一時休む」ことになりました。

表 平成16年度(24本)と20年度(25本)の樹木比較表  
(アンダーラインのものは両年度共通のもので、13本)

No.	樹木名 (H16)	No.	樹木名 (H16年)	No.	樹木名 (H20年)
1	<u>めたせこいあ</u>	13	つばき	1	やしゃぶし
2	<u>いちい</u>	14	ひのき	2	まるばのき
3	<u>ふじ</u>	15	あべまき	3	やまはぎ
4	<u>ひとつばたご</u>	16	<u>ねず(ねずみさし)</u>	4	えのき
5	<u>さくら</u>	17	さるすべり	5	しでこぶし
6	<u>はなのき</u>	18	いちよう	6	にせあかしあ
7	<u>けやき</u>	19	あおき	7	ひさかき
8	<u>あかまつ</u>	20	<u>そよご</u>	8	うめもどき
9	<u>びらかんさす</u>	21	やまはんのき	9	どうだんつつじ
10	<u>さざんか</u>	22	りょうぶ	10	ほおのき
11	<u>いぬつげ</u>	23	<u>こなら</u>	11	なつはぜ
12	<u>かえで</u>	24	<u>しいのき</u>	12	くぬぎ
		計	H16年度 24本	計	H20年度 25本

## 事例 報告Ⅱ

# 活動の柱は「森を愛する人づくり」

## —拡大を続ける大阪森林インストラクター会—



大阪森林インストラクター会 会長 菅沼 洋

大阪森林インストラクター会は1998年に発足し、様々な活動の広がりとともに知名度も上がり、現在、会員数120名の組織になっています。大阪の森林率(31%)は小さいですが、880万人の大きな人口を抱える大都市です。それだけに、貴重な森林は市民に親しまれています。私たち森林インストラクターの役割は、面積の大小にかかわらず、森林の恩恵を受けて暮らしている都会の人々へのアプローチやつながりと考えています。活動のキーワードは「人と人、人と森のつながり」。さらに、社会、環境、団体とのつながりを広めること。自然に親しみ森を愛する人(「森人(もりびと)」と呼ぶ。)を増やすことを、最重点としています。

多くの活動の中で、「森林インストラクター養成講座」と「市民講座〈森人塾〉」は最も力を傾注する事業です。森林インストラクター養成講座は今年で14回目。関西で森林インストラクターを目指す人への受験講座で、近年は50~70人が受講されています。毎年、大阪の試験会場は半数を受講座生が占めるようになり、高い合格率を誇っています。単なる受験対策ではなく、会員が交流、受講生と会員がつながり、そして、「つなげる・つながる」輪を広めています。未合格者は大阪会の「友の会」制度でフォローもしています。

市民講座〈森人塾〉は今年で3回目となり、一般市民を対象に全12回(約半年間)、座学と実習を行って「森を愛する人=森人」を育成しています。修了生は、それぞれ次のステップに向かい、森林の専門講座の更

なる受講や環境活動、森林ボランティアなどで活躍しています。市民向けの活動では、近畿中国森林管理局から「木と緑の相談室」の委託を受け、木や緑に関する相談に当たるほか、自然観察会、クラフト指導など幅広い活動を行っています。その他、朝日放送「みんなの木」、箕面小学校「かきの木クラブ」木工講座、長居植物園での「木の実を使ったクラフト」、老人デイサービスセンター「クラフト」、大阪府立大学「さくら祭り」、大阪府警イベントなどなど、多くの活動を行っています。

2011年度の「子ども樹木博士」行事は、そんなたくさんの方々の事業の中を縫って、富田林市の錦織公園「森・林・木をみてみよう」(7月17日)、大阪桜ノ宮公園イベント「見て・さわって樹木のハカセになろう!」(8月17日)で2回実施しました。どちらも親子対象の事業で、子どもたちだけでなく保護者の方も一緒に加わって真剣に楽しみました。樹木の名前を通して森林に親しんでもらうことにより森林への関心を持ってもらうことを目的とし、それがきっかけとなって、森林活動に参加していただけるようにもなりました。こういった「つながり」により、輪が広がっていることを実感しています。

このように、2011年度は、大阪森林インストラクター会にとって、「子ども樹木博士」を始め、多くの新しい事業に関わり、チャレンジし、活躍した年でした。当会の会員が昨年関わった人数は延べ1,455人。全くの総力戦でした。

2013年、全国森林インストラクター会が一般社団法人へ変わります。「森と人を結び・・・森林環境の保全、国民生活の充実など、社会に貢献すること」をミッションとして、更なる活動が期待されます。大阪森林インストラクター会も、活動の柱を「森を愛する人づくり」とし、「森林や林業の役割とその重要性」を一般市民に啓発するとともに、人と人、人と森、全てのものに「つなげる・つながる」の輪を広げて参ります。つなぎ役は、森林インストラクターのモットーです!そして、仲間を増やして人数と交流でパワーを増強させ、社会へアウトプットすることこそが、社会貢献につながると考えています。



大阪府富田林市の錦織公園「森・林・木をみてみよう」  
(2011年7月17日子ども樹木博士)

## シリーズ

# 東南アジアの木々たち (17)

## —南国の象徴・ココヤシ②—



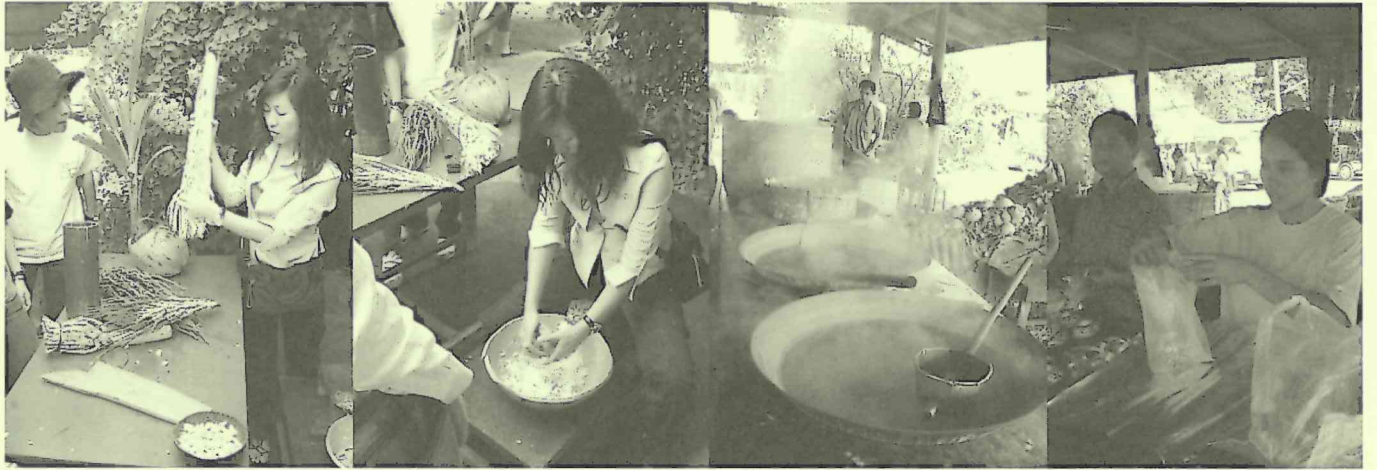
自然と植物の観察会 TREECIRCLE 梅本 浩史

南国の楽園・南の島のイメージがとてもよく似合う椰子の仲間「ココヤシ」。日本の南の島と言えば、沖縄や小笠原諸島などを思い浮かべますね。沖縄方面でも、ココヤシの植栽を見ることができますし、小笠原では一部、自生もあると言われています。

ココヤシの実は、堅い皮の中に空気を沢山蓄えた繊維質の層があり、海水に浮くことができます。その性

質を利用して、大きな海流によって海を漂い、とても遠くの浜辺にも漂着します。そこで根を下ろして育つ訳ですね。

このような特徴の実を「海流散布種子」と呼んでいます。ココヤシが、世界中の熱帯地方の海岸に広く分布するのも、この海水・海流への適応があったからなんですね。



画像の左から2番目：固形胚乳を削り、これがミルクになります。

さて、ココヤシの果実「ココナッツ」からは、前回の「ココナッツジュース」とはまた別に、「ココナッツ・ミルク」が採れます。それを粉末にした物を「ココナッツ・パウダー」と呼んでいます。

我が家では、カレーにココナッツ・ミルクやパウダーをよく用います。甘く優しい風味のカレーに仕上がりますよ。想像以上に、美味しくなりますから、みなさんも是非お試しください☆



## 子ども樹木博士質問コーナー

茨城県植物園 緑のインタープリター  
森林インストラクター 堀内 孝雄



これまでに寄せられた多くの質問の中から、一般的、共通的な質問についていくつか回答を掲載します。

**Q** 生の青いウメの実には毒があるので食べては  
いけないといわれました。ほんとうでしょうか。

**A** 昔から「青梅は食べてはいけない」といわれ  
ていました。未熟のウメの実を生食すると食中  
毒を起こすことがあるからです。

青梅のタネ（種子）や果肉には糖と青酸が結合した  
青酸配糖体の一つであるアミグダリンという成分が含  
まれているからです。特にウメの未成熟の種子の核に  
はアミグダリンが多く含まれていて、果肉の 10～20  
倍といわれます。アミグダリンは、人の消化管内で分  
解されて青酸を生じ、中毒を引き起こすことがありま  
す。このため青梅を生食することはよくないといわれ  
るのです。ウメの果実が熟すと青酸配糖体が分解され  
て、人間や動物に食べやすくなります。もともと青酸  
配糖体はウメの未熟な実を害虫から守るためのものと  
考えられます。

青梅を梅干し、梅酒、砂糖漬けなどに加工して長期  
間漬けこむことは毒素の分解を促進します。青酸配糖  
体の分解が進んで、無毒化しているものと考えられま  
す。大人の場合は、青梅を少しくらい食べても、ひど  
い時でも腹痛や下痢を起こす程度ですが、子どもには  
危険な自然の有害な毒物であることには変わりありま  
せん。食用にされているバラ科植物の果実で、未成熟  
種子に青酸配糖体のアミグダリンを含むものは、ウメ  
のほかにアンズやアーモンドなどがあります。



ウメの未成熟の果実

**Q** 楼蘭（ローラン）遺跡の写真で見られる木は  
胡楊といわれますが、どんな木でしょうか。

**A** 中国のシルクロードの要衝として栄えた楼蘭  
王国は砂に埋もれた遺跡ですが、発掘の結果、  
おびただしい木材が使われていることが明らかになっ  
ています。こうした建築用材などに使われた木が胡楊  
です。胡楊は、シルクロードを代表する樹木として知  
られています。

胡楊はヤナギ科の落葉高木で、ポプラの仲間（ヤマナ  
ラシ属）です。和名をコトカケヤナギといいます。学名  
はポプルス エウフラテイカ（*Populus euphratica*）です。  
「旧約聖書」の「詩編」に「バビロンの流れのほとりに座  
り、シオンを思って、私たちは泣いた。竖琴は、ほとりの  
柳の木々に掛けた。」と囚われの身となったイスラエ  
ルの民が自らを歌う一節があります。この柳がコトカケ  
ヤナギであるといわれます。コトカケヤナギは不思議  
な木です。葉の形が異なり、細い葉と広い葉が同じ個体  
の中で見られます。このため異葉楊と呼ばれます。一般  
に幼植物は被針形の葉で、成木では樹冠の上部には鋸  
歯を持った卵円形の葉をつけ、下部には三角形の葉  
や被針形の葉をつけています。このため、*P.diversifolia*  
（多様な葉を持つポプラ）の学名も使われました。

寿命の長い木としても知られています。「千年不死、  
千年不倒、千年不朽」（生きて千年、立ち枯れて千年、  
倒れて千年）といわれます。



砂漠に生育する胡楊（コトカケヤナギ）

## ● ● 事務局だより ● ●

### ◆第12回通常総会の開催について（報告）

7月2日(月)、林友ビル（東京都文京区後楽）会議室において、当協議会の第12回通常総会が開催されました。なお、当日は、これに先だって第14回役員会が開催されました。

総会では、先ず木平勇吉会長（東京農工大学名誉教授）の開会の挨拶、続いて来賓としてご出席いただいた林野庁の本郷浩二計画課長から森林環境教育の重要性について、そして子ども樹木博士活動への期待を込めたご挨拶をいただき、その他ご出席いただいた林野庁の担当官の紹介がありました。

議事では、平成23年度の活動報告及び収支決算報告、平成24年度の活動計画（案）及び収支予算（案）が審議され、承認されました。審議の中では、平成23年度における認定活動の実施等が東日本大震災の影響も含めて極めて厳しい結果となったことなどを踏まえて、平成24年度においてはその巻き返しを期待する旨の意見等があり、実施団体のネットワーク化の推進等に一層努めることとされました。

また、当日は、総会に引き続いて、「環境教育プログラムと実践」と題して、東京都奥多摩湖畔公園山のふるさと村ビジターセンターのインタープリター、小川結希さんによる特別講演が行われ、日頃の活動状況等を踏まえた実践的で興味深いお話をお聞きしました。



自分から動けば、それはそれは楽しく、効果的な力になります。  
（小川結希さんの特別講演PPTから）

### ◇平成23年度活動報告の概要

- 1) 機関誌「子ども樹木博士ニュース」を6月、9月、12月及び3月の年4回発行・配布（発行部数：各回810～900部）
- 2) 認定活動の実施状況（実施団体から事務局に報告されたものなど）
  - ・実施回数で延べ73回、参加人数で延べ約23百人（前年度：91回・約31百人）
  - ・地域ごとには22都道府県で46団体による実施（前年度：27都道府県・60団体による実施）
- 3) 「認定証」、「認定活動の進め方」、その他の資料等の配布
- 4) 新しい「子ども樹木博士のための樹木ガイド」の普及
- 5) 実施団体等からの要請に応じた森林インストラクターの紹介
- 6) ホームページの更新等

◇平成24年度の活動計画：平成23年度とほぼ同様の内容（掲載略）

◆平成23年度の「子ども樹木博士」認定活動の実施状況は、通常総会の報告にもありますが、前年度に比べて低調でした。実施回数や参加者数ばかりでなく、認定証の配布枚数でも前年度を大きく下回っています。平成24年度は、東日本大震災の復興・復旧とともに、「子ども樹木博士」の復興も期待しています。

◆認定活動を実施された場合は、その実施結果についてご報告をお願いします。報告用紙はホームページからもwordの用紙をダウンロードできます。用紙がないなどの場合は、実施団体名・実施年月日・募集対象と人員・参加者数・実施場所などをメモ書きしていただき、FAX又はメールなどでお送りください。よろしくお願いいたします。（〇）

## 子ども樹木博士ニュース

2012年9月1日 No.48

### 子ども樹木博士認定活動推進協議会

〒112-0004 東京都文京区後楽 1-7-12 林友ビル 6階  
一般社団法人全国森林レクリエーション協会内  
TEL：03-5840-7471 FAX：03-5840-7472  
E-mail：kodomohakase@shinrinreku.jp  
URL：http://www.shinrinreku.jp/kyokai/kodomokyou.html  
http://www.shinrinreku.jp/kodomo-n/main.html